



徳成寺 寺ともかわら片反 第144号 2018年12月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

2018年も終わりますが、皆さんどんな一年でしたでしょうか。

私はなんとなく心配です。世界の指導者が、お互いの自分の欲望を

むき出しにするようになり、70年以上戦争をしてこなかった日本も

否応なく巻き込まれていくような予感がします。公の立場にある人さえも

公私の区別をつけず、公私混同して危険な状態に思えるのです。阿弥陀様のお心

は、真に公なる精神であると言われます。水や空気や大地のように誰か特定の国の

人や人種・民族だけを生かすのではなく、生きとし生けるあらゆるいのちを

生かし養い育みます。「もとの阿弥陀のいのちに帰せよ」というお念仏の

叫びが、切実に響きます。阿弥陀のいのちに逆らって不自然に生きるより

自然に生きていきたいですね。

*子供おつとめ本を、ご希望の方はご一報下さい。

-発行責任者-

住職

大山健児

坊守

大山ひとみ



大山超世の耳を澄ませば



どうもお世話になっています、長男です。

今月は東京に住んでいる友人が遊びに来ました。

お目当は徳島の大塚美術館や直島の瀬戸芸の常設展示など、芸術鑑賞がメインで宿泊地が瓦町だったので晩御飯を一緒に食べました。

観光客向けの晩御飯と言えば、一鶴ですね。連日連夜行列の絶えることのない人気店で、やはり混んでいました。

しかし、積もる話をしていくとあっという間に席までご案内になり、久しぶりに一鶴の骨付鳥にありつきました。久しぶりに食べると美味しいですね。

仏具磨き・報恩講・ミニコンサート



11月23日(金・祝)午後2時～徳成寺で、勤労感謝の日恒例の「仏具磨き」が行われました。これまでで最も多い方々にご協力頂き、快調に進みました。おかげ様で全ての仏具がピッカピカになりました。初めてお子さんと参加したお母さんは、「こんなにお寺の仏具が重いと思わなかった」と驚きの感想を寄せて下さいました。最後にお楽しみ抽選会をして、大いに盛り上がりました。

12月2日(日)午後1時～親鸞聖人報恩講・仏教講座が勤まりました。仏教をみんなのものに取り戻して下さった親鸞聖人のおかげで、こうして3名の方々が仏教徒として生まれ変わり、誕生致しました。心からお祝い申し上げます。毎月様々な活動をしておりますが、集大成として「共に仏教徒たれ、自ら仏教徒たらん」というお寺の使命を果たすことができ、受式された皆さんと喜びを分かち合いました。



親鸞聖人の生涯を絵で表した親鸞聖人伝絵四幅も、この報恩講の折にだけ開帳されました。9歳から29歳まで比叡山



で修行しつつ、本物の仏教は何か?を悩み抜かれ、その後に師・法然上人に出会い、誰か特定の人にしか歩めない仏教を選び捨て、いつでもどこでも誰でも歩めるみんなの仏教こそ、本物の仏教だと目覚め歩まれた生涯が描かれています。

今年最後の寺ともは、「馬場斐子さんのソプラノミニコンサート」でした。にほん歌曲を中心に披露して下さいました。本堂中に美しい歌声が響き、聞く者の心をなごましてくれまいした。

特に「この道」はジーンとききました。終わりに同級生の娘とピアノ伴奏の福田まなさんと記念撮影しました。

